教育相談（カウンセリングを含む）
Educational Consultation (including Counseling)

OZAWA Takafumi
小澤　貴史

科目ナンバリング：UTL-2-311-07

■授業の目的及び到達目標
この授業では、多角的視点から教育相談（カウンセリングを含む）を探求する。個々の生徒の発達状況に則して必要な支援が行えるように教育相談の意義、基礎的な理論や技法を理解することや、保護者や校内組織・外部専門機関等との連携の必要性に対する認識を高めることを授業の目的とする。到達目標は、学校における生徒の悩みや様々な問題等に適切に対応していくために、実践を意識した実習に積極的に取り組むことを通して、教師に求められる教育相談・学校カウンセリング及びカウンセリング・マインドを身につけることである。

■授業計画
1 教師が行う教育相談及び学校カウンセリング
【ガイダンス】１．授業の方法　２．コアカリキュラムについて　【第１回授業】１．教育相談とは　２．学校におけるカウンセリングとは　３．教師が行う教育相談の特徴　４．教育相談の進め方　５．実習
2 子どもの理解と教育相談
１．発達とは何か（発達課題の具体例）　２．児童期の特徴　３．青年期の特徴　４．個性・個人差の問題　５．実習
3 教師と保護者のコミュニケーション
１．保護者とどのようにかかわるか　２．保護者との個別のコミュニケーション　３．保護者面接の方法と基本姿勢　４．実習
4 教育相談・学校カウンセリングの組織と連携
１．主な連携の形態　２．教師とスクールカウンセラー等との連携　３．教育相談と生徒指導との連携　４．実習
5 教育相談におけるアセスメント
１．教育相談におけるアセスメント　２．心理的問題の状況把握　３．学校で起きる諸問題の把握と対応　４．実習
6 子どもたち同士の理解を深める
１．構成的グループエンカウンターとは　２．構成的グループエンカウンターの実施方法　３．実践例　４．実習
7 ソーシャルスキル、ライフスキルを育む
１．ソーシャルスキル教育と実施方法　２．ライフスキル教育と学校保健　３．ライフスキルと発達障害　４．実習
8 進路を見通す
１．キャリア教育とは　２．キャリア教育の方法　３．ハンディを負いやすい生徒への情報提供　４．実習
9 集団不適応と不登校
１．集団不適応の理解と支援　２．集団に対する配慮　３．不登校にどのようにかかわるか　４．学校の不登校対策　５．実習
10 いじめと非行
１．いじめとは　２．いじめにどのようにかかわるか　３．非行の諸相　４．非行への対応　５．実習
11 児童虐待及び危機対応と PTSD
１．児童虐待とは　２．児童虐待にどのようにかかわるか　３．危機と危機介入　４．ＰＴＳＤへの理解を高める　５．実習
12 特別な支援ニーズへの理解と教育相談
１．学習障害　２．注意欠如・多動症　３．自閉スペクトラム症　４．生徒の発達の遅れや歪みへの理解を高める　５．実習
13 試験・フィードバック
授業中に試験を実施。採点結果に基づき、授業全体の振り返りとフィードバックとしての解説を行う。

■授業の方法
講義（教科書必携）と実習を通して、教師として必要な教育相談に対する理論と実践力が高まるように授業を進める。学校現場で想定される仮想事例をもとに、ロールプレイングやディスカッション形式の実習をより多く取り入れていくために積極的に関与することを要望する。毎回、課題提出（論述、小テスト）を求める。

■予習・復習
予習（1 時間程度）は、教科書の当該授業の単元を精読し、基本用語等をノートに整理すること。授業の始めにグループワークにより予習内容を確認した上で講義するため、しっかりと準備してから受講すること。復習（1 時間程度）は、各回で学んだ内容を再度教科書・講義資料で確認し、ノート等を見直し、関係する文献等を調べること。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
毎回のレポート提出（50%）、授業中のディスカッション・実習への関与度（20%）、学期試験（30%）で評価する。提出されたレポート及び学期試験については、個別及び全体に対するフィードバックとしての解説を行う。

■教科書・参考書
教科書：小林正幸他編,『＜改訂版＞教師のための学校カウンセリング』有斐閣
参考書：『生徒指導提要（改定版）』文部科学省

■関連する科目
教職課程「教育・発達心理学」「特別支援教育論」及び全学共通教養科目「心理学」を修得していることが望まれる。